



南の風

令和7年度
延岡市立南浦中学校
学校だより2月25日発行
文責：酒匂慎一郎

熊野江教室 小田原みろくさん快挙!!! 警察庁主催「交通安全ファミリー作文コンクール」優秀作入賞!!!



国民一人一人の交通安全意識の高揚を図り、交通ルールの遵守と正しい交通安全マナーの実践を目指すために警察庁が行っている「交通安全ファミリー作文コンクール」で、熊野江教室2年生 小田原みろくさんが見事「優秀作 国務大臣・国家公安委員会委員長賞」を受賞しました。全国で最優秀作2名、優秀作9名に入る快挙となります。

2月18日(水)に高森教育長のもとに表敬訪問をして、この快挙の報告をいたしました。新聞社3社も来て、インタビューも受けました。

みろくさんは作文「右、左、右っ!!」を教育長の前で立派に読み上げました。作文は祖父との思い出をもとに交通安全を誓う内容で、何回読んで涙が出てくる心温まる素晴らしい作品です。

裏面に作文を掲載しますので、ぜひ一読していただき、地域を挙げて交通安全の意識を高めていきましょう。

地域情報紙「みなみうら」を作成・配布を行いました!!

本年度、総合的な学習の時間に「地域への恩返し」をテーマに地域情報紙「みなみうら」を作成しました。パソコンを使って全て生徒手作りの情報誌です。その情報誌を2月13日(金)に延岡イオンでお客様に配布しました。生徒は、ふるさと南浦の良いところがいっぱい詰まっている情報誌を、「南浦のことを知ってもらいたい」「遊びに来てもらいたい」という思いで配布しました。手作りの貝殻ストラップも一緒に配布し、お客様に喜んでもらっていました。その様子は新聞社2社とMRTから取材を受けました。**3月21日(土)16時45分から、MRTテレビ「みらい・みやざき まなび隊」で放送されます。**ぜひ、ご覧ください。



本校・熊野江教室「九州パンケーキ」講話・調理実習を実施!!



2月5日(木)、家庭科の時間を使って、「九州パンケーキ」やレタス巻きの「一平寿司」、宮崎市の「タリーズコーヒー」などの事業を展開している「一平ホールディングス」の社長の内村さまをお迎えして講話をしていただき、続けて、全て九州でとれる原材料で作られた「九州パンケーキ」の素を使って、パンケーキ作りをして美味しく頂きました。とても良い経験ができました。

【本校での講演の様子】 【熊野江教室での調理の様子】

本校・熊野江教室「薬物乱用防止教室」を実施

2月20日(金)、延岡警察署からお越し頂き、「薬物乱用防止教室」を行いました。薬物の怖さや薬物が身近なものになっていることを知って、犯罪に巻き込まれないよう気を付けたいと思います。



右、左、右っ！！

「右、左、右っ！よく見て、よし進め！」祖父と一緒に散歩する時に必ず言われた言葉だ。私が幼い頃から優しく大好きな祖父とよく近所を散歩をした。いつも散歩する時は私の手を力強くギュッと握りしめていつもの優しい祖父の顔と違って真剣で少し怖いくらいの表情で歩く祖父との散歩は決して和やかな感じではなくどこかピリッとした緊張が漂っていた。特に横断歩道の前に来ると「右、左、右ッ！しっかり見て！」と大きな声で言われ、「手を上げて！」と手を上に引かれてしまう。そして大きなトラックが近くを通る度に痛いくらい私の手を握りしめて立ち止まってしまう。この祖父の行動が不思議で仕方なかった。

私が小学校高学年になると散歩する機会も減りたまに誘われても理由をつけては断っていた。そんなある日、親に言われ嫌々ながらも久しぶりに一緒に散歩した時のこと、近所の横断歩道の前で「右、左、右ッ、しっかり見てね！」といつもの大きな声で言われ私は思わず「分かってる！大丈夫だから！」とつい言い返してしまった。祖父の顔を見るのも怖くて何も話さず二人で家に帰った。

そんな祖父が今年の四月に五年間の闘病の末亡くなった。日に日に弱くなって呼吸も難しい中、祖父が私に「みろくは良い子じゃ、また散歩しような」と私の手を弱々しい力で握りながら言った。「うん」と私は答えるのが精一杯だった。それが祖父との最期の会話になった。大きな悲しみの中、葬儀も終わり仏だんににっこり笑う祖父の写真が置かれた。その隣に小さな女の子の写真が並べられた。その写真の存在は以前から知っていたが気にも留めていなかった。思いきって父に尋ねてみると父の妹つまり祖父の長女和子さんの写真だと教えてくれた。和子さんは二才半の頃近所の横断歩道を歩行中に進入してきた大きなトラックの車輪に巻き込まれ亡くなったと和子さんの写真を見ながら父が話してくれた。その話を聞いたとたん、私の心の中で祖父のあの「右、左、右ッ！」という大きな声がよみ返り大きなトラックが近くを通る度に立ち止まっていた行動の意味が分かった気がして涙がポロポロと止まらなくなった。そして「じいちゃん、ごめんね」と写真の中で笑う祖父に心から謝った。なぜ祖父はその話を私にしてくれなかったのだろう。もしかすると、祖父の中で四十八年経っても和子さんの死を受け入れられずにいたのかもしれない。私と和子さんを重ね合わせていたのかもしれない。

「右、左、右ッ！よく見て！よし進め！」

祖父の声が私の中で響く。

「うん。気をつけるね、じいちゃん。大好きだよ、じいちゃん。」